

陸上自衛隊V-22オスプレイの予防着陸について（口頭要請）

令和6年10月23日に、陸上自衛隊第1ヘリコプター団所属の航空機V-22オスプレイ1機が、令和6年度日米共同統合演習（KS25）における訓練のため、熊本県高遊原分屯地を離陸し、鹿児島県徳之島を飛行中のところ、エンジンの油圧系統の不具合のおそれを知らせる注意灯が表示されたため、鹿児島県にある海上自衛隊鹿屋航空基地に予防着陸しました。「予防着陸」は事態の悪化を防止するための措置であることは理解しますが、陸上自衛隊V-22オスプレイは立川飛行場への訓練も実施されていることから、予防着陸に至った事態については、周辺住民に不安を与えるものです。

貴職においては、このような状況を十分に認識され、次のとおり対応するよう要請します。

- 1 今回の予防着陸の原因究明を行い、説明を行った上で、再発防止の徹底を図ること。
- 2 所属機の点検整備を強化し、安全確保の徹底を図ること。
- 3 以上に関する情報を関係自治体に速やかに提供すること。

令和6年10月25日

北関東防衛局長 森 浩久 殿

立川飛行場周辺自治体連絡会構成市長

立川市長	酒井大史
昭島市長	臼井伸介
小平市長	小林洋子
日野市長	大坪冬彦
国分寺市長	井澤邦夫
国立市長	永見理夫
東大和市長	和地仁美
武蔵村山市長	山崎泰大

幹事 立川市長 酒井大史